

○地域公共交通のあり方を考えるシンポジウム in 仙台（東北運輸局）

東北運輸局では、11月22日（木）に仙台市内において、「地域公共交通のあり方を考えるシンポジウム in 仙台」を開催しました。

当シンポジウムは、利用しやすい地域公共交通のあり方や関係者の役割を、皆様と一緒に考える機会として開催したもので、当日は自治体、交通事業者、学生など、約150名もの皆様にご参加いただき、大盛況のうちに終了しました。

シンポジウムの模様については以下のとおりです。

【国の施策説明】



「今後の地域公共交通に対する取組み」

国土交通省総合政策局交通計画課 上村昇企画調査室長

- ・ 交通基本法案の国会審議の状況、都市低炭素法の概要、地域公共交通を取り巻く状況、地域公共交通の活性化に向けた国の支援制度、各地域における取組みについて報告。

【基調講演】



「『おでかけ』を支える地域公共交通のマネジメント

～行政・交通事業者・市民は何を実践するか～

福島大学つくしまふくしま未来支援センター 吉田樹 特任准教授

- ・ 「なぜ地域公共交通が衰退したか？」から紐解き、地域公共交通戦略が目指すものについて説明。

- ・ 公共交通を分かりやすく「見せる」工夫や「地域発」で公共交通を考えることが必要。
- ・ 協議会を実質化して、対症療法の施策ではなく「全体計画」を考えること。
- ・ 地域公共交通を改善し「おでかけ」を守るためには、行政・交通事業者・市民が三位一体で、三者のリスク分担を明確にし「小さな実践」から始めることが重要。三者の言語の翻訳者として、外部人材を活用するとよい。

【事例発表①】



「震災後の被災地における移動手段の確保～三陸沿岸での取組み～」

NPO法人遠野まごころネット 多田一彦 理事長

- ・ 震災直後から現在までの活動の紹介。
- ・ 行政、民間、NPO、ボランティア等、異なる立場の組織・団体がタッグを組むことが必要。
- ・ 移動手段が存在することによる「いつでも外出できる、人とつながれる」といった安心感が重要。

【事例発表②】



「使いやすい公共交通の実現をめざした八戸市の取組み」

八戸市都市整備部都市政策課副参事 畠山智 交通政策グループリーダー

- ・ 八戸駅線共同運行化プロジェクトを始めとする平成23年度に大臣表彰を受賞した際の取組みや上限運賃化実証実験など最近の取組みについて紹介。

- ・公営・民営バス事業者間の「連携」を実現するために、開かれた会議運営や学識経験者によるアドバイスやコーディネートを活用することがポイント。

【トークショー】

「使って残そう！地域の貴重な足」

コーディネーター：吉田准教授

出演者：多田理事長、畠山グループリーダー、藤川優里八戸ふるさと大使、
坂本慶介国土交通省東北運輸局企画観光部長

- ・冒頭、各出演者が地域公共交通の確保・維持・改善について思うことを発言。
- ・その後当日事例発表等を聞いて参加者から受け付けた質問に対して、出演者が回答。
- ・最後に、出演者・コーディネーターから「伝えたいこと」を発表。

○坂本企画観光部長「使って残す」



- ・地域公共交通を確保するためには、まずは住民等がしっかり利用することが重要。また、そこで暮らす住民だけでなく、観光客など外部の人に利用してもらうことも有効であり交流人口の拡大が重要。公共交通と観光は持ちつ持たれつの関係。

○多田理事長「ビジョンとアクション」

- ・しっかりとしたビジョンをもって実践（アクション）することが重要。異なる立場の人・考え方が交わって成功につながる。

○畠山グループリーダー「利用者目線（ニーズ受け改善）」

- ・移動目的があってこそ利用するため、利用する目的・ニーズを受け止め改善することが重要。

○藤川八戸ふるさと大使「ただの通学路はいつか一生モノの思い出になる」



- ・公共交通は単なる移動手段ではなく、利用することそのものに意義がある。また、公共マナーが意識的・無意識的に身につく教育・学びの場となる。

○吉田特任准教授「小さな実践が新しい一歩につながる」「突破力」「発信力」

- ・まずは小さな実践から始め、調整の難航など困難な事態に対しては突破力を持つことが重要。成功した際にはどんどん発信してもらいたい。



終了後のアンケートでは、大変多くの参加者の皆様から「満足した」との回答をいただきました。東北運輸局では、今後とも地域公共交通の課題に取り組む方々を積極的にサポートし、セミナーの開催等によって、自治体、交通事業者等の皆様と一緒に地域公共交通のあり方について考えて参ります。